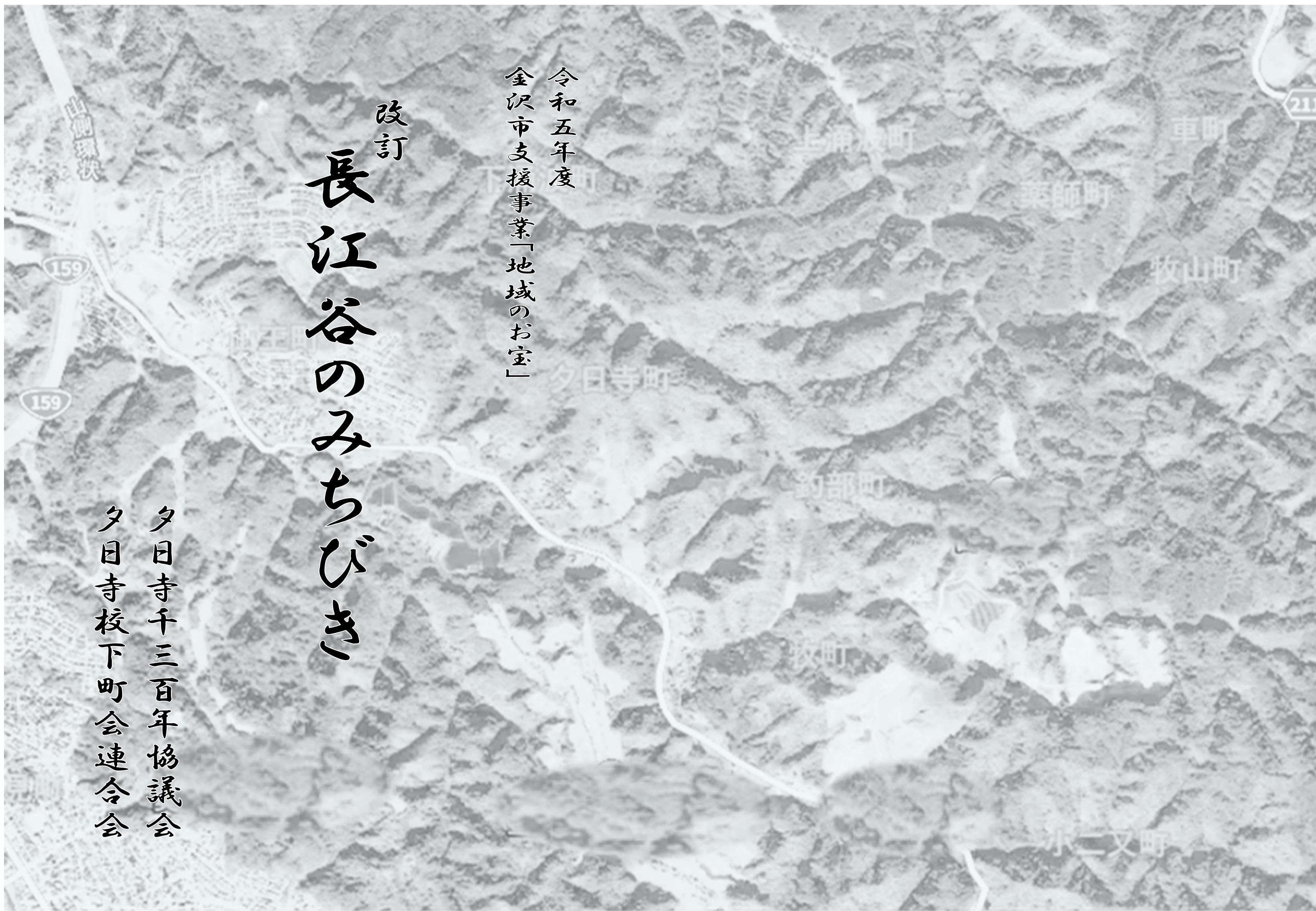


令和五年度
金沢市支援事業「地域のお宝」

改訂

長江谷のみちびき

夕日寺千三百年協議会
夕日寺校下町会連合会



改訂版発刊について

夕日寺町会連合会 会長 中川 一成

この度、本冊子を前回の発刊から六年目に改訂版を出すことができました。

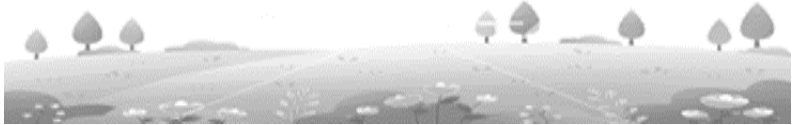
初版の「長江谷のみちびき」（平成二九年度金沢協働のまちづくりチャレンジ事業）を発刊後、夕日寺校下地域の伝承文化や史跡に関心を持っていた地域内外の多くの方々に散策コースを歩いていただく機会が増えた事をうれしく思っています。さらに、夕日寺小学校の児童生徒と金沢星稜大学生が合同で里山を散策する企画や、児童と地域住民で長江谷ジョンカラ、釣部田んぼ染めを学ぶ機会が生まれるなど、地域と各種団体との連携事業へと広がっています。

一方で、夕日寺校下の歴史は千三百年を超え、地域の宝として誇れる伝承文化、史跡、古道はそれぞれの時代において様々に変容しており、このことから再度、各時代における史跡や伝承文化、近隣地域との往来道の情報を深掘しておくことの重要性を感じ、夕日寺歴史研究会が中心となって収集整理をしてまいりました。それらの情報の中でも今回は比較的情報量の多い藩政期後半から明治期の道路網や伝承文化を中心に充実させて纏めまし
た。すべての道が今日でも安全に歩くことができるわけではありませんが古道を散策しつつ、道の変遷ひとつをとってみても我々の町の歴史は人々が流動しながら重層的に積みあがっていると感じるのはないかと思っています。

地域コミュニティの希薄化が懸念される今に、地域の歴史を記録する本冊子の改訂版発刊は意義深いものと考
えます。

なお、本改訂版は令和5年度金沢市認定歴史文化遺産（地域のお宝）支援事業の活動団体「夕日寺千三百年協議会」と推薦団体「夕日寺校下町会連合会」がその成果品として発刊しましたが、情報収集、調査、編集など多くの部分に夕日寺歴史研究会のご協力をいただきました。新たな情報や技術を活かし大幅に加筆して頂いた章も複数あります。短い時間での改訂作業に対応して頂いた皆様に改めてお礼を申し上げます。

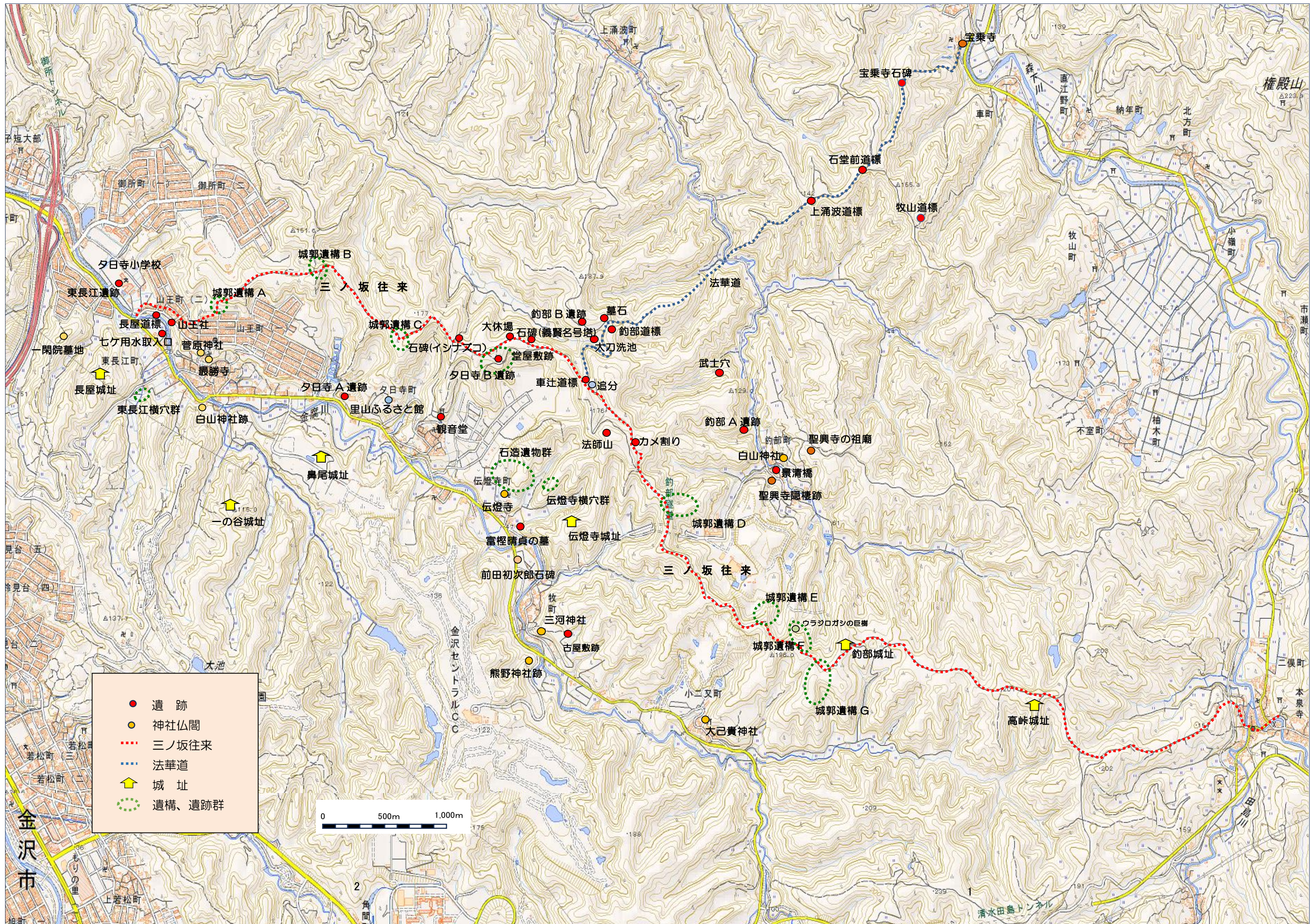
二〇二四年二月



目次

一	夕日寺遺跡等地図
二	絵図に見る江戸・明治前期の道路網
三	三ノ坂往来
四	山城址
五	神社仏閣（東長江）
六	神社仏閣（夕日寺）
七	神社仏閣（伝燈寺）
八	神社仏閣（牧・小二又）
九	神社仏閣（釣部）
十	その他
十一	神社仏閣（伝燈寺 石造遺物）
十二	伝承文化
十三	年表で読む長江谷
十四	金沢市遺跡地図（夕日寺地域）
十五	参考資料一覧
十六	編集後記





絵図に見る江戸・明治前期の道路網 ー近隣地区との結びつきー





イシナズコ石碑
この石碑は、正面に「南無大
悲観世音菩薩」右側面に「夕日
寺村」と彫られていました。天
明 5 年（1785）に建てられ
ました。
現在残っている部分に「薩」
「村」が確認できます。元の長
さは、1m40～50cm あった
と考えられます。

イシナズコ石碑



車辻道標
追分にある石碑は、車町宝乗寺への法華道の道標
です。
右は釣部・二俣、左は直江谷・車の宝乗寺へ行き
ます。

かめ割り・石仏
一向一揆と富樫軍が戦ったとき、富樫軍
が追い詰められ「最期の決戦だ」と水杯を
酌み交わした後、水かめをたたき割った所
と伝えられて、その名が付いたと考えられ
ます。
その後、戦死者を弔うため、阿弥陀さん
の石仏を建てられました。



3. 三ノ坂往来

三ノ坂往来

大樋町から東方へ尾根沿いに、二俣をへて、富山の福光まで 4 里（約 16km）の山路を通称「三ノ坂往
来（道）」と呼んでいます。尾根道及び川沿い道とも、三ノ坂越と考えられますが、高峰城跡の横を通る
尾根道が古道である可能性が高い。但し、江戸時代の文献は金腐川沿いの道である。

- 名称については、三通りの説があります。
- ① 福光から大樋までの間に、急な坂道が三ヶ所あるので「三ノ坂」
 - ② 花山法皇、後醍醐天皇の内親王が山形の旧家へ降家の時、長慶天皇が越中福野へ行幸の時、この三
人の皇がお通りになったので「三王坂」
 - ③ 東長江裏山、現在の井 108 番地と山王 2 丁目 218 あたりを結ぶ場所に山王神社が建っていて、そ
の前を通る坂道なので「山王坂」

三通りの説は、それぞれ次のように使われています。

- ・「山王町」の名前は、山王神社説。
- ・「三王遊歩道」は、三皇通行説。
- ・「三ノ坂往来（道）」は、三つの坂説。

また、この道は、古くからあったと思われ、次のことが考えられます。

- ・養老 3 年（719）頃、泰澄大師がお通りの折、千手観音菩薩と狛犬を彫り、納める祠を建立し、「養
老山下日寺」と名付けたとの伝説から、地名となったと言われています。
- ・寿永 2 年（1183）頃、倶利伽羅山の戦いで両軍が駆け抜けたと思われま。
- ・興国元年（1340）頃、北国街道の裏道として開通以来、多くの人々が利用しました。
- ・元龜元年（1570）富樫・伝燈寺と一向一揆の戦いで、晴貞自刃し、富樫家滅びました。
- ・文明 6 年（1474）～元正 8 年（1580）、一向一揆の戦場になる。
- ・天正 12・3 年（1584・5）、前田利家と佐々成政が対峙し、本街道や脇街道に砦を構え、多くの城
郭が整備されました。
- ・江戸時代には、越中の呉羽山西部から倶利伽羅山までの間の、加賀藩へ納める年貢米を馬の背に乗
せて運びました。
- ・安政 3 年（1856）、藩主斉泰が参勤交代の帰り、総勢 1830 人程のお供と共に二俣から尾根道
を進み、大休場で休み、最後に一気に下り金腐川を渡って金沢城に到着しています。



東長江団地（長屋城付近）から三ノ坂を見る



長屋道標



長屋道標



茶店「さんのさか」
天保 9 年（1838）ころ、山王橋北側沿いに茶店が
建っていたようで、二俣参りの人々は、ここで汗を
拭い、お茶を飲んで一息を入れてから、山道を登っ
たことが想像できます。

長屋道標
赤戸壺石の石碑は、車町宝乗寺への道標で、
天和元年（1681）9 月 19 日（七面大明神
の祭日）に和泉屋長兵衛が建立したもので
す。法華道の起点であり、最古のものです。

4. 山 城 址



鼻尾城址

田井砦にいた松田次郎左工門が須崎兵庫の騙し討ちに倒れた後、その仇を討とうとした平田小右工門がここに砦を構えたのであろうと言われます。小右工門はここで破れ、蓮如に帰依しました。(1474)

グランドゴルフ場一帯で空堀や石垣があったといわれています。

一の谷城址

長屋城を西に見、谷を一つ越えて目の前に鼻尾城と向かい合う位置にありました。城跡の遺構は、中腹部の土を削り大小の平場を造成した程度で、村人が隠れるために築いた砦と考えられます。

長屋城址

城砦ではなく、天正 8 年(1580)佐々間盛政が織田信長の命により、加賀の一向一揆勢を攻めたときの陣営跡ではと思われます。若松本泉寺や卯辰山に築かれた砦群と対峙していたと思われます。土塁や郭の跡が見られます。



伝燈寺城址

利家と佐々成政との戦いに寺僧数百人と近郷の百姓を集め、都合千計にて度々越中勢に立ち会い、越中勢を追いやりました。天正 11 年(1583)

富樫晴貞の墓から、急な山道を登った「御館」「城ヶ峰」と呼ばれるところにあり、土塁や郭・堀切があります。



山城址



高峰城址

加越国境古道に位置し、荒山城と共に利家と佐々成政が対峙した城跡です。不破彦三に壘を固めさせたとされます。(1583)

小二又町から林道を登って、乙丸町の飛び地へ出ると、三の坂道沿いにあります。

土橋、堀、郭などの遺構を見ることが出来ます。



古道「三ノ坂往来」



城郭遺構 A



三ノ坂往来交通量



大休場



義賢



三ノ坂往来の義賢名号塔



堂屋敷跡



大休場

三谷 15 か村浅川 15 か村の人々が尾山(金沢)へ行く途中に牛や人が履く草履が破れるころなので、新しいものに替える場所でした。取替えた草履が 2m 程積まれていたようです。

茶屋があり繁盛していたようです。

石碑「義賢名号塔」

大きな戸室石があります。義賢行者の名号塔です。中央に「南無阿弥陀仏」義賢の花押、側面に「無縁法界」(無差別平等の世界)、反対側に「嘉永二巳酉」(1849)と彫られています。

ご縁のないすべての方々の供養塔と思われます。

堂屋敷跡

養老 3 年(719 年)泰澄大師は、医王山を開山した後、三ノ坂往来を通られ、「千手観音菩薩」2 体と「狛犬」2 体を彫り、納めたお堂の跡と言われています。

そのお堂を「養老山 下日寺(げにちじ)」と名付けたことが「夕日寺」の地名の由来となりました

(「夕日寺観音堂」参照)

6. 神社仏閣（夕日寺）

夕日寺観音堂

泰澄大師作と伝えられる「千手観音菩薩」が祀られています。また、矢田四如軒作の「板地彩色絵馬額面」があります。

・地名「夕日寺」の由来

養老3年（719）泰澄大師は、医王山を開山した後、三ノ坂往来を通られ、洞窟で一夜を取ったおり、越中「上日寺（じょうにちじ）」（現在氷見市朝日寺）の観世菩薩の礼拝を夢に見て、傍らの佳木で「千手観音菩薩」2体と「狛犬」2体を彫り、納める伽藍を建立し「養老山 下日寺（げにちじ）」と名付けたことが由来です。それが「夕日寺」と言うようになり、今の地名となりました。

伝燈寺と共に霊場名刹として、遠近に聞こえるほどでしたが、延徳3年（1491）伝燈寺の兵火で類焼しましたが、千手観音菩薩と狛犬は焼失を免れました。神社に安置されていたが、大正5年現在の地に「夕日寺観音堂」を建造し現在に至ります。また、「三ノ坂往来」の「堂屋敷跡」が「夕日寺」の本堂跡と言われています。（「夕日寺観音菩薩縁起」より）

・「板地彩色絵馬額面」（金沢市指定文化財）

板地額面に神馬を描いた、二面一対の絵馬で「白毛」「黒毛」の繋ぎ馬です。狩野画風ののびやかな筆法で描かれ、馬の生彩の溢れる形態は、蹄の音やいななきの音が今にも聞こえてくるようです。背中から腹に帯の文様が画面を一層引き立てています。

制作年代は、矢田四如軒（しにょけん）が50歳余りの安永中期か天明の初期頃（1780年前後）と思われます。四如軒は、加賀藩の前田土佐守直躬（なおみ）に仕えた武人画家で本名を六郎兵衛（ひろつら）といいます。中国や我国の古画を模写し画技を高め、早くから画名が広がりました。俳画や仏画、鳥画が知られています。加賀の千代尼と同時代で松任の聖興寺にある「朝顔や・・・」の句の掛軸は、四如軒との合作です。

菅原神社

菅原大神を祭る。光仁天皇宝亀3年（772）の鎮座と伝わり、加賀藩士不破彦三が深く崇敬していました。千手観音像を安置していました。



夕日寺観音堂



菅原神社



板地彩色絵馬額面



5. 神社仏閣（東長江）



菅原神社

東長江には白山神社（菊理姫神）と菅原神社（菅原道真）がありましたが、明治41年に「一村一社」の政令により白山神社を合併しました。

祭日は、春3月17日（旧暦2月25日菅原道真の命日）秋9月23日（白山さんの縁日）に行われています。



蓮如上人舊跡

最勝寺

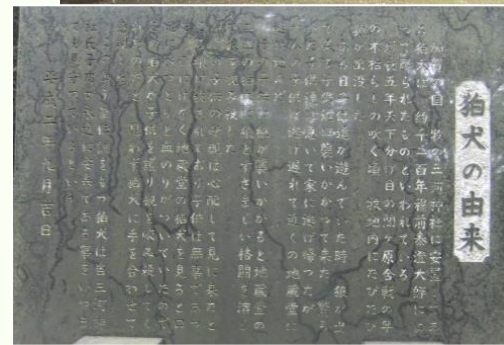
最勝寺

一向一揆の頃、鼻尾城の大將「平田小右衛門久則」が、敗戦により長屋村（東長江町）に住み、蓮如に出会い信仰して、願西と名乗り文明15年（1484）に臥龍山最勝寺を興しました。

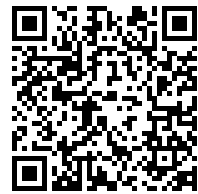
最勝寺



8. 神社仏閣（牧・小二又）



三河神社



三河神社
祭神は、香山戸神・大山津見神・菊理姫神です。
明治 37 年 2 月 牧・戸室神社、明治 40 年 11 月 伝燈寺・白山神社を合祀しました。
泰澄大師が彫ったとの伝承がある夕日寺観音堂千手観音の残り木の「狢犬」があります。伝燈寺鎮守宮に安置されていたが、明治の神仏分離の際、三河神社に移座されました。



おおくにひめ
大己貴神社
祭神は、「大己貴命（オオナムチノミコト）」で、別名「大国主命（オオクニヌシノミコト）」、「大黒様」です。
ご神体は、観音様です。

大国主命



7. 神社仏閣（伝燈寺）



運良の経歴



伝 燈 寺
恭翁運良が創建したのは、近年の研究から大乗寺住職を退任した後の 1330 年以降と考えられます。運良の死後次第に幕府の保護を受ける五山派に近づき、後柏原天皇など 3 人の天皇の勅願寺になったと言われています。
最盛期には七堂伽藍を構え、塔頭 21 カ寺、末寺 50 あったと言われています。当時の建物の名前がついた地名があることから、往時を偲ぶことが出来ます。
元龜元年（1570）加賀の守護職富樫家と一向宗の紛争に巻き込まれ、兵火のため焼失し、往時の面影がなくなりました。
承応 3 年（1654）加賀藩 3 代藩主前田利常が本堂復興をしようとしたが、利常の死去により中止となりました。現在の本堂は、明治 36 年に建てられたものです
本尊釈迦如来像は、13 世紀前半制作で寺創建時どこからか移された可能性があります。また、宝徳 2 年（1450）に修理し、後頭部から仏師「常陸祐俊」の名前が確認されました。県内に現存する仏像で古い部類になります。



伝燈寺（身代わり地蔵）
旅の僧雲良和尚が、地蔵堂で一夜を過ごしていたら、山賊の悪四郎に襲われたが、地蔵が身代わりとなって顔面を切られたことで、生命を救われました。
山賊は、和尚により悪事を悟り和尚の弟子になり修行を積んで二代目の住職「綱存和尚」となったとの話が伝わっています。
毎年 8 月 24 日この地蔵の供養が行われます。

10. その他



東長江横穴古墳
(ミナミガヤチ古墳)
「1A」「1B」の2箇所あります。



七ヶ用水
1740 年頃、東長江で角落して水位を上げ、水揚げ場を作り、七ヶ所の村（長屋・御所・山の上・談義所・神宮寺・浅野・大衆免）に用水を通しました。
現在は、県道拡張で東長江団地左側から川へ流れ寸断され、貴船橋下流から用水となっています。
手取の七ヶ用水と間違えないください。

前田初次郎碑
前田初次郎（1857～1926）が山間地の土地を上手く使うため、養蚕研究を自ら重ね、牧・伝燈寺を中心に養蚕を奨励したのでナガエ谷全域に広がった。
蚕のため、瓦葺き 2 階建ての風通しの良い家に改造されたので「近辺の文化村」といわれ各地から見学者たちが訪れるほどでした。
牧町の入口にあります。

9. 神社仏閣（釣部）



白山神社



「景清橋」

白山神社
祭神は、菊理姫神ですがご神体は、十一面観音です。
倶利伽羅の戦いで落ち延びた平家の武士が日夜礼拝したそうです。後に白木の像を金箔にしたようです。
手前にある橋は、景清橋と言い、平景清は釣部の出身という説があります。

地蔵堂には、大小三体のお地藏様があり、元禄年間（1688～1704）に白木屋から贈られたもの、願いが叶えられたお礼に奉獻されたと伝わります。



地藏堂



白山神社境内



聖興寺の祖廟

聖興寺の祖廟
長享 2 年（1488）徳光正明（聖興寺開祖）が一揆で敗れた祖父等の首級を釣部に埋葬し、同地の近く（現公園）で明源法師と名乗って隠棲したのが、始まりとしています。
首級を埋葬した地を聖興寺の祖廟として、現在も歴代住職の分骨が行われています。
聖興寺（現白山市）は、加賀の千代尼で知られています。

聖興寺



C 地点



開山達良墓



二代徳四郎墓



平法・居合道の記念碑



本多利明碑

本多利明



D 地点



奥村易英の大型五輪塔

奥村易英



藩士津田正賢の墓
(子)

藩士津田義真の墓
(父親)

津田正勝



無縫塔



F 地点



富樫晴貞



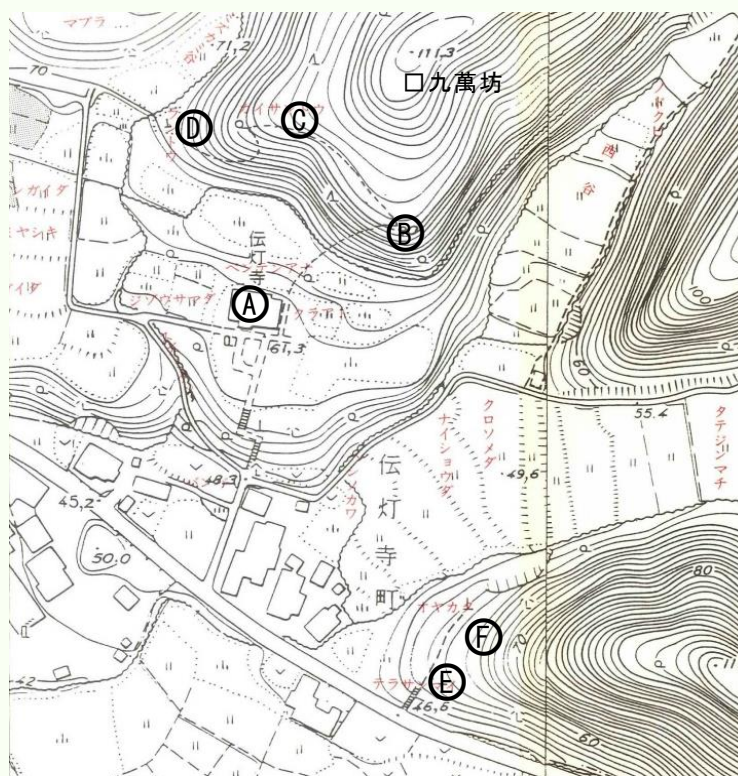
富樫晴貞墓

九萬坊



九萬坊

11. 神社仏閣（伝燈寺 石造遺物）



B 地点



津田正勝墓所（大型五輪塔）

津田正勝



伝燈寺（石造遺物）

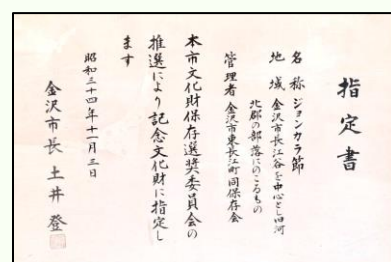
伝燈寺・周辺の六ヶ所に所在している。

1. A 地点：地藏菩薩像（身代り地藏）
2. B 地点：大型五輪塔（津田正勝墓所）
3. C 地点：一・二世の無縫塔、本多利明碑、兵法・居合道の記念碑
4. D 地点：奥村氏家の家祖易英の大型五輪塔、藩士墓塔（津田義真、正賢）無縫塔
5. E 地点：伝燈寺町の共同墓地
6. F 地点：富樫小次郎塔（晴貞）

長江谷ジョンカラ

長江谷ジョンカラは、古代の歓喜談に近いとされ昭和 32 年に金沢市記念文化財第一号に指定されました。

室町時代から続く原形のまま伝承されています。



長江谷ジョンカラ



田んぼ染め

田んぼ染めは、江戸時代から明治の初期まで黒染めしていたものを復活したものです。

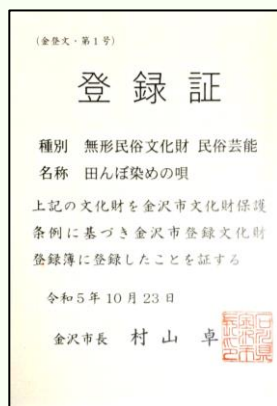
小学生に夕日寺の文化を学ぶ授業の一環として、保存会の皆さんと一緒に取り組んでいます。歴史を学ぶことや実際に田んぼに入って染める体験することで地域に伝わる伝統文化の良さを感じる体験をしています。

令和 5 年金沢市登録文化財に選ばれ、今後の保存、活用につなげていかされると期待されています。



釣部

田んぼ染め保存会



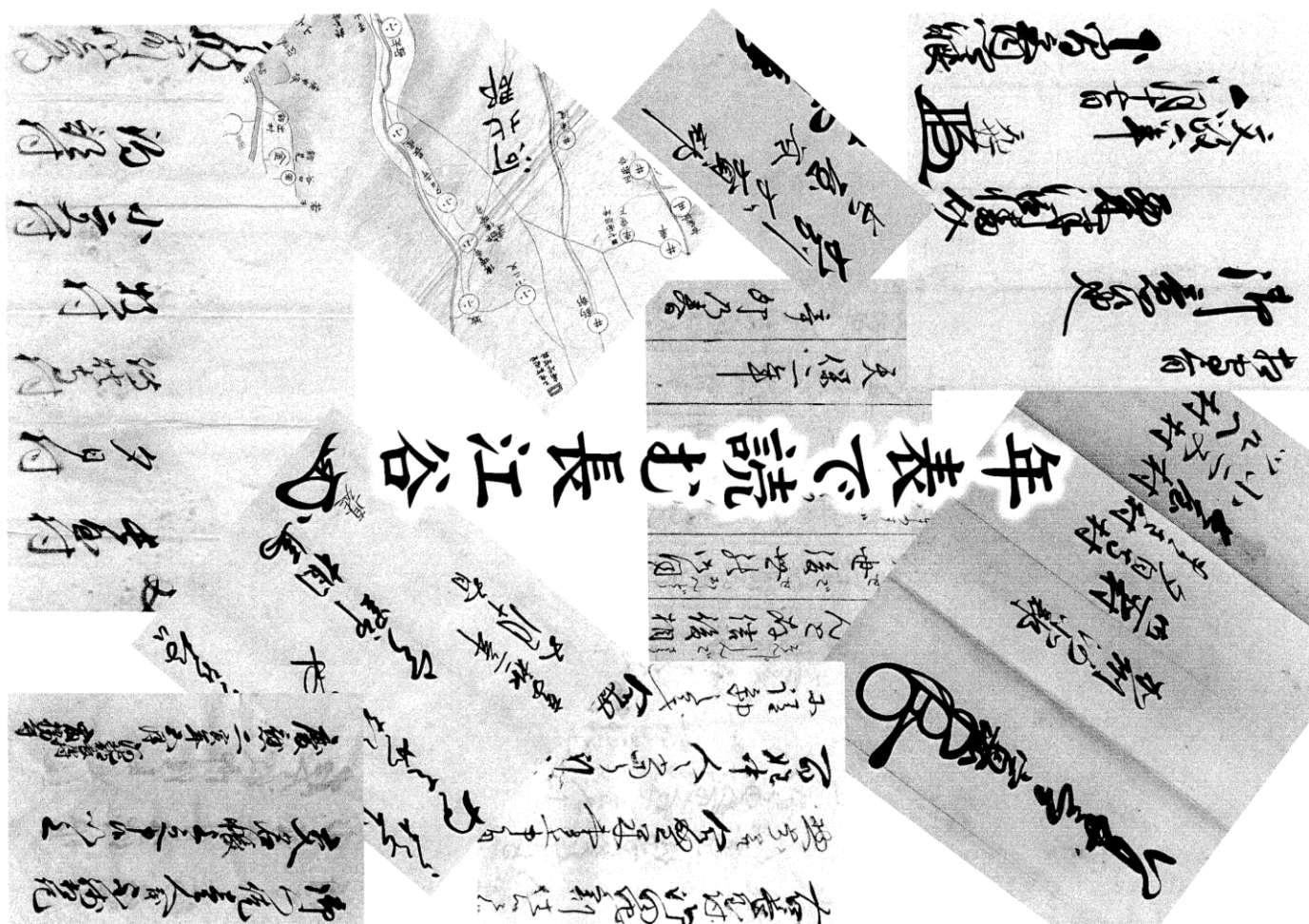
調査作成 夕日寺歴史研究会
主筆 平田大裕

厚く御礼申し上げます。

伝燈寺、御所村、夕日寺小学校は既に刊行本があり、長江谷との主要な関係分だけ掲載しました。一九四五年、昭和二十年は検索が容易なため、掲載してあります。なお、長屋村は金沢市編入前の東長江町旧名です。

ました。
以後、判明事項を順次加筆して現在に至っています。編集の都合上、年次不詳や伝承に基づく事項は省略してあります。編集にあたり多くの方々からご協力、ご助言をいただきました。紙面ながら、

この近世近代年表は、長江谷一帯の歴史研究にあたり、調査の目安として諸図書や文書類から抜粋、平成十六年に初版を作成し



一六八九・松尾芭蕉が金沢へ来る
一六九〇・金沢大火九七日二十
六百軒焼失
一六九二・各村々に五人組制度
一六九六・藩内飢饉
一六九七・金沢で人口調査
町六万八千六百人
一六九九・卯辰山が崩壊
一七〇二・赤穂藩士が吉良義典
を殺害
一七〇四・町人の屋号や商品に
加賀の名柄を禁止
一七一・郷村帳を幕府へ提出
総石高は二〇万五千石
一七二六・八代将軍に徳川吉宗
加賀とびの始まり
一七二・藩内十五歳以上の百姓
と町人五万四千三百五十六人
一七二四・藩主綱紀が死去
一七二七・小百姓を村戸煎役採用
一七三三・加賀藩内は不作
一七三四・江戸で甘藷(さつま
いも)を初試植

一六八三・天和三年 小又村の阿弥陀如来像に源信作の極め書
一六八八・元禄元年 坂下より三里内村々邊筋(二ノ坂邊筋)
一六八九・元禄二年 長屋、小又村領一部が御林山(松)指定
一六九二・元禄四年 郡内各村を流れる川名と源流を書上
一六九六・元禄十二年 長江谷は釣部村涌波川、金蔵川関係、
三ノ坂源流関係に記載
一七〇〇・元禄十三年 藩が加賀郡を再び河北郡に改称
一七〇一・元禄十四年 御所に狼出沒し、藩が退治に人を派遣
一七〇二・元禄十四年 萬達成育の場所(主に長江谷二帯)と
金沢からの距離、収量を書上
一七〇四・寛永元年 松尾芭蕉門弟の句空が夕日寺と伝燈寺の
詠句を含む、ほしあめ集を書述
一七二二・正徳二年 長屋村西勝寺が金沢・五箇町へ寺地移転
一七二二・正徳二年 金浦組村々氏神堂書上帳・倉長江谷全社
一七二七・享保二年 金沢城内の時鐘を向山御所村領内で再鑄
一七二九・享保四年 過去(延宝四年・一六七六)に夕日寺村の
八右衛門を松大盗伐で追出、同村の與三兵衛
と加右衛門を禁籠処分にしたことを報告、
これ以後、盗伐の判例になる
一七二五・享保十年 夕日寺村で大火、多くを焼失
一七二七・享保十二年 傳燈寺文書(小又村について記載)
一七三二・享保十六年 傳燈寺での富樫氏の戦いが武家耳底記に
一七三三・享保十七年 長江谷を含む奇談著述の森田盛昌が死去
一七三五・享保二十年 この時点で御所に賣船(地)社が存在

2

一四五〇年代 室町幕府
・足利義政時代
一四八・二回一揆で富樫家滅亡
一五八三・前田利家が金沢入城
一六〇〇・関ヶ原の戦い
一六三三・徳川家光が三代将軍に
一六三五・参勤交代の制度始まる
一六四四・幕府が諸国に郷村高帳
及び国郡諸城の図作成
一六五〇・金沢強震、城の石垣
崩壊で堀が埋没
一六五七・徳川光圀(寛門様時代)
一六五九・前田綱紀が図書収集始
一六六六・石川、河北両郡で松
杉、桐、楓、唐竹の伐採禁止
一六七〇・加賀藩が創設による
農民収容施設を作る
一六七六・尾張藩から運搬を
取り寄せて小坂村で移住
一六七八・藩主綱紀が領民所蔵の
古書や古器を閲覧

一四五六・康正二年 河北郡の名柄が初めて出る
一四六一・寛正二年 大飢饉発生、傳燈寺で降雨祈願法要を行う
一四六三・寛正四年 傳燈寺が河水(金蔵川)の侵蝕で大いに破壊
一五八三・天正十二年 傳燈寺や高峰城で前田利家と佐々成政が戦う
一五九六・慶長四年 御所村源兵衛が神明宮(賣船神社)を建立
一六三〇・寛永七年 織役米米納の四カ村へ権役状
一六四四・享保八年・慶安 藩が正保郷帳(年貢徴収の基本)を作成
夕日寺村藤左衛門、小又村宗右衛門宛
一六四四・享保八年・慶安 藩が正保郷帳(年貢徴収の基本)を作成
一六四六・正保三年 河北郡御所村組鑑図に記載の村名は長屋村
牧村、伝灯寺村。夕日寺と小又は記載なし
一六五四・承応三年 藩が伝燈寺領所地を伝灯寺と小又二部に
一六五七・明暦三年 藩が伝燈寺領所地と意高を定める
一六五八・万治元年 藩主利常死去で傳燈寺の修復が中止になる
一六六〇・万治三年 御郡万役人が三ノ坂近辺で松木伐採跡を多数
発見、山荒れを防ぐため調査の必要を報告
一六七〇・寛文十年 村御田調書(長江谷は三百石貢田増設)
一六七〇・寛文十年 加州三郡高免付御給人帳(長江谷各村所屬組)
について五所村源兵衛組は長屋村、夕日寺村、
伝灯寺村、牧村、小又村、田野崎新石衛門組へ釣部村
一六七〇・寛文十年 牧村へ村御印、総石高は三百石
一六七二・寛文十年 藩主綱紀が河北郡を加賀郡に改称
一六八一・天和元年 車村宝乗寺への遺しるべきを長屋村に建てる

1

一七九六・金沢が大地震、被害多
一八〇二・東海道中膝栗毛が発刊
一八〇三・伊能忠敬が
金沢治産を測量
一八二・加賀藩内の産物を調査
一八六・加賀藩の十五歳以上の
百姓・町人六万四千
一八六二・三この間ペリリス
船が来航し、幕府混乱
一八二二・大聖寺藩十万石格に
一八三二・松平定信が兼六園命名
一八三三・幕府が異国船
打込令を出す
一八二八・諸国大洪水
一八二シ・ホルト事件
一八三〇・伊勢おかげ参り流行
一八三三・能登輪島に津波
三百軒流失

一七九四・寛政六年 夕日寺観音堂絵廊(現金沢市文化財)を
描いた天田四郎軒が七十七歳で死去
一八〇二・寛政十三年 長屋村道場に峻嶒新辨(寛政は二月改元)
石の博物館、雲根志が大坂で刊行
傳燈寺山中出土の化仏も記載
一八〇二・享和二年 東本願寺より長屋村道場へ観音聖人御影下付
一八〇五・文化二年 富田景閑が越後貢三州志を藩主へ献上
(長江谷に関する記載を含む)
一八六・文化十三年 長屋村で火災、最勝寺が類焼
夕日寺村神社内の柱に排句(文政八年度)
一八八・文政元年 藩が三州測量図籍を作成。一保村へ至る
金蔵川沿いと三ノ坂道の二本を記載
一八二・文政四年 藩招請の教習者本多利明の門弟等が
傳燈寺境内に顕彰碑を建立
一八三・文政六年 東・邊如上人より長屋村へ書状
一八六・文政九年 東・邊如上人より小又村へ書状
加州河北郡図が完成
一八二八・文政十年 長屋村吉古権門家の記録開始(大正まで)
四ノ用水に二年間の予定で水トノボル掘削
一八二九・文政十一年 願書を下流四カ村が提出
一八三二・天保二年 夕日寺村下の道に
「右伝灯寺、左夕日寺道」の道標建立

4

一七四四・加賀藩が大阪より蠟を
取寄せ、藩内各地で栽培
一七四六・五十四・加賀騒動
一七五七・平賀源内が物産会開催
一七五九・金沢大火、城・家屋の
焼失二万余戸
一七六六・金沢城二ノ丸上棟式
一七六六・金沢へ江戸三度飛脚始
一七六六・加賀藩士が江戸より
孟宗竹を移植
一七七四・解体新書が出版される
一七八〇・藩内で天候不順、こめ
か虫と疫病多発で参勤
交代を二年間延期
一七八三・犀川、浅野川両橋流失
一七八七・金石、大野大火。翌年
金石再出火、四百軒焼失
一七九二・寛村御立立法を施行
一七九二・幕府が退治禁止令
一七九六・初の蘭日辞典が刊行

一七三九・元文四年 東本願寺真如上上人より長屋谷八カ村へ書状
一七四二・寛保二年 傳燈寺住職が藩主へ新年御目見(料紙十帖と
末広二本を献上)
大樋町で大火、八十八軒が焼失
一七四四・延享元年 東本願寺が長屋村最勝寺へ如上人御影下付
二ノ坂近辺で二ノミナシの鎌倉
一七四九・寛延二年 七カ用水使用の各村間に水争いが発生
(旧暦五月十八日。現暦六月末頃)
一七五七・宝暦七年 三州山川旧蹟志に大樋村から長江谷をへて
一保村に至る道筋を記載
一七六四・宝暦十四年 舊跡等調査に長屋村地内、長屋城跡を記載
河北郡長井谷で四月に大火、六十軒ほど焼失
一七六五・明和二年 長江谷は御所細支配区域になる
藩より古保川、金くらひ(金蔵川)にて投網
停止令。河北郡にて雄子の殺生が禁止。
一七八三・天明三年 富樫家の遺族小杉善左衛門が伝燈寺村に
晴貞の墓石を建立(現つち番地二)
三ノ坂道の通称、石頭(ツチノスカ)に
一七八五・天明五年 金沢市出火、四百軒焼失
一七九〇・寛政二年 長屋村蛇尻と牧村領二部が御林山に指定
傳燈寺開山四百五十回遷忌を行う
一七九三・寛政五年 西本願寺の本如版御文章が長屋村吉衛門へ

3

一八四〇・大陸でアヘン戦争勃発
一八四〇・幕府が天保の改革開始
一八四一・高島秋帆が西洋砲術の訓練を実施
一八四二・人情本が禁止になる
一八四三・藩内で家老が政権争い
一八四五・大聖寺藩が軍政改革
一八四五・藩が珠洲郡狼煙に
一八四五・藩が据付ける
一八四八・石川郡打木で砲術訓練
一八五四・ペリが再来・幕府は日米和親条約を締結
一八五五・金沢で強震・城壁や石垣を損壊
一八五五・安政の大地震

一八四〇・天保十二年 河北郡小坂組十村、山廻村日誌より
夕日寺村…野田入尾懸樋朽垣に付き仕替願、
深道懸樋仕替願
傳燈寺村…寺ノ上樋朽垣に付き仕替願、和尚と初体面
炊杓…縁廻シ出水についで
小又村…蓮池谷堤普請についで
一八四〇・天保十二年 釣部村…正月二十三日に長次郎と新兵衛、
二百二十八日に肝煎權兵衛と喜三郎家が
焼失。十村から郡奉行へ権兵衛と喜三郎
に対し銀三五百の拝借願い
一八四〇・天保十二年 五カ山大牧入邊道ノ記に
(同十四年)三ノ坂道の状況が記録される
一八四二・天保十二年 珠洲大谷村農民が小坂村辺に所有していた
懸作地を小坂村、談義所村、御所村、長屋村が共同で
買い戻す。長屋村肝煎嘉兵衛・同肝煎六兵衛
一八四四・天保十五年 釣部村の阿弥陀如来像に煙書(村氏蔵)
一八四五・弘化二年 小又村に疫病、九人が施薬を願ひ出る
一八四七・弘化四年 長屋村住民が一年間に十二人が死去
一八四七・弘化四年 釣部村の黒染めを記述した柴野美登が死去
一八五五・安政二年 異国船渡来に備え河北郡担当の海岸守備に
長屋村四人が黒津船へ夕日寺村六人、牧村三人、
小又村一人、釣部村六人が高松へ割当
一八五五・安政二年 異国船渡来の場合、港御郡所へ馳集まる人夫
を、小坂組長屋村へ二人が番手として割当

一八三三・天候不順で飢饉
天保の飢饉が始まる
一八三四・諸国大飢饉。金沢では
御救小屋に三千四百人収容
一八三五・加賀藩が十三万所に
区需用蓄米倉を設置
一八三六・冷気・小降雨で不作
死者が多数
一八三七・藩内で農民の農業放棄
が多数発生、予防を命ず
一八三八・石川郡二八カ村、農民
の荒害虫害訴訟が弾圧される
一八四〇・幕府が翌年より
三年間の使約令
一八四〇・幕府が諸国の人口調査
一八四〇・幕府がオランダ語翻訳
書を改竄り、赤染の着
板に蘭字の使用を禁ず

一八三二・天保三年 じょんからの教書囃が版本刊行
長屋村切高証文。長屋村百姓伊右衛門、同
百姓九郎右衛門・肝煎嘉兵衛・組合頭吉右衛門・
同七右衛門から西川源兵衛・林嘉兵衛
御所村…略・夕日寺村肝煎庄右衛門・伝灯寺村肝煎
与三右衛門・牧村肝煎武兵衛・小又村肝煎市兵衛
一八三六・天保七年 河北郡東本願寺圓參通場書上全四十八中
夕日寺村次郎衛(現稱名寺)、牧村
三郎右衛門・長屋村垣坊(現最勝寺)
一八三七・天保八年 牧・小又村領山へ戸室石搬出に敷く用材
伐り出しに山廻り役が牧村へ出向
一八三八・天保九年 長屋村住人が二年間に三十九人死去
長屋村から小又村までが小坂組小坂庄
釣部村は小坂組井上庄になる
一八四〇・天保十二年 なんか豊除に長江谷各村へ餅(にしん)油
の割当。受取人は釣部村権兵衛・小又村
源右衛門・牧村武兵衛・伝燈寺村与三右衛門・夕日寺村
六兵衛・長屋村嘉兵衛。油量は総計二斗八升二合
一八四〇・天保十二年 藩が加越能三州細絵図を完成
長江谷も記載
一八四〇・天保十二年 河北郡小坂組十村、山廻村日誌より
長屋村…四カ用水関係、文之坂橋架け替願、
山王坂道大破に付き修復願

一八六二・寺田屋事件、生麦事件
一八六二・金沢で五月に麻疹、
八月にコレラ流行
一八六二・参勤交代が緩和
各藩主の妻子らが帰国
一八六二・加賀藩が汽船を購入
一八六三・藩が海防のため
銃卒糧古を開始
一八六四・藩が長州征伐へ四千
人、長州藩が幕府に對抗
一八六五・加賀藩が子弟五十人を
洋学のため長崎へ派遣
一八六五・加賀藩が天然痘予防の
ため種痘所を設置
一八六六・薩長同盟が成立
一八六六・藩が砲術を西洋流に改
め、梅鉢海軍と呼称

一八六二・文久元年 長屋村水源の七カ用水増強計画に対して
下流上三カ村が水不足の危険を訴える
一八六二・文久二年 長屋村が御田地割上申帳を作成
肝煎七右衛門・組合頭吉右衛門・同嘉兵衛
長屋村を含む河北郡八組十八カ村の十村役へ
はしか、コレラ流行により、信上全遠済
の一年延期を願ひ出る
連名の内、長屋村肝煎七右衛門
一八六二・文久二年 小又村が折開願出し田形書を提出
大風之為損本あり、河北郡各村が御郡奉行所
へ引取方願状を出す。連名の内、長屋村肝煎加兵衛
夕日寺村肝煎庄右衛門、牧村組合頭民兵衛 8
一八六五・元治二年 長屋村住民が長州の手前で死去。
(薩兵として長州征討に参加?)
一八六五・慶応元年 郡奉行が種痘来所者数を書上
正月より六月まで。河北郡長江谷(長屋村)一八
夕日寺村十七人、伝燈寺村八人、牧村二十四人
長屋村領山、通称道ノ尾を農事の多量粉火
より出火、焼失被害は千歩。若松村領山も
三十三歩焼燬を金浦組若松村が報告
牧・小又村からも見分報告

一八五六・幕府が使約令を出す
一八五六・加賀藩足輕の弓組隊止
砲術訓練をさせる
一八五八・金沢強震
燹書家屋三三七軒
一八五八・卯辰山で町民が
米価高騰を訴える
一八五八・安政の大騒動まる
一八五九・加賀藩内にコレラ流行
一八六〇・函館に五樓郭が完成
一八六〇・桜田門外の変
一八六二・江戸に天然痘が流行
一八六二・加賀藩が藩医に
種痘を許可
一八六二・幕府が西洋医学所開設

一八五五・安政二年 河北郡小坂組各村の家数と人口
長屋村 五二五石・八軒・男九八人・女二三八人
夕日寺村 九五石・二四軒・男 六七人・女 六九人
伝燈寺村 五四石・五軒・男 十五人・女 十六人
牧村 一八五石・二五軒・男 九四人・女 六二人
小又村 二五石・十二軒・男 二七人・女 二三八人
釣部村 一六九石・三九軒・男二〇七人・女 九四人
一八五六・安政三年 藩主前田斉義が参勤交代で帰国にあたり
二俣から三ノ坂往來を通る
一八五九・安政六年 大衆免村領永代御証文 大衆免村から
小又村肝煎源右衛門・同組合頭源助へ
一八五九・安政六年 大衆免村領山永代御証文案紙
大衆免村から小又村組合頭伝右衛門へ 7
一八五九・安政六年 念直山永代請山証文案紙
小又村組合頭源右衛門から大衆免村へ
一八五九・安政六年 大衆免村領山永代請山証文
大衆免村肝煎へ
一八五九・安政六年 大衆免村領山永代請山証文
小又村肝煎源右衛門・組合頭源助から
一八六二・文久元年 組切之方権三仰付方願書
連名の内、長屋村肝煎七右衛門
作食米御貸付願書
一八六二・文久元年 連名の内、長屋村肝煎七右衛門

八六六・加賀大洪水で二万五千
金沢大洪水で三千七百軒被害

八六七・卯辰山に養生所開設
八六七・十月に幕府が政權返上
八六八・八月八日、明治改元
八六八・神仏分離令が出る
八六九・旧藩主らが版籍奉還
八七〇・浦上切支丹を卯辰山へ
八七〇・一般住民に姓が許可
八七二・廢藩置県

八七二・金沢城の建物部分撤去
八七二・金沢県庁が石川県庁に
改称、美川町へ移転
八七二・金沢で郵便事業開始
明治六年一月一日とする
八七三・石川県庁が金沢へ復帰
八七四・兼六園を公園として
一般に開放
八七六・金沢に全国初の博物館

八六六・慶応二年 長屋村助谷で同村に右衛門が心中事件を発見
後に、じよんから曲目の二になる

八六六・慶応二年 長屋村士分交名帳を上書。
足懸二入、小者五九人を記載
七ヵ用水修復の図取り図を作成
長屋村嶺山下、長屋前の二ヵ所を記載
神佛迴済禁止令で長江谷の二部神社で
合併や名称変更を行う
新政府管理の寺号認定書が最勝寺へ(十月付)
長屋村嶺故合と堀入尾、その地近辺にわたる

八六九・明治二年 長屋村嶺故合と堀入尾、その地近辺にわたる
徒刑所建設用地七万歩を確保につき、錦見・
長屋・御所・田井の四ヵ村が土地代保証を
条件に、受入を表明。連名の内、長屋村
戸籍法編成で租制から區制になり、長江谷各
村と釣部村は河北郡第四區三番組になる
長屋村、夕日寺村の戸籍簿が編成
長屋小学校が創立
山反別地価附帳が小・又村副戸長松田源助と
組長西川源右衛門から石川県令内田政樹へ
長屋村住民二人が初めて金澤堂所へ徴兵され

八七六・明治九年 長屋村住民二人が初めて金澤堂所へ徴兵され
九州・西南戦争へ行く
八七二・明治五年 長屋村、夕日寺村の戸籍簿が編成
長屋小学校が創立
山反別地価附帳が小・又村副戸長松田源助と
組長西川源右衛門から石川県令内田政樹へ
長屋村住民二人が初めて金澤堂所へ徴兵され
九州・西南戦争へ行く

八七七・西南戦争始まる

八七九・明治天皇が石川県巡視
八八二・石川県二部を福井県へ
八八三・石川県部を富山県へ
八八五・伊藤博文が初代総理に
八八五・旧金沢藩士ら
北海道へ入植
八八六・県内にコシ流行、十
月までに死者四千五百人

八八七・金沢第四高等学校
開設になる

八八八・市町村制公布
八八九・大日本帝国憲法発布
八八九・金沢市制施行、
人口九万四千二百人
八八九・近江町で魚市会社が
営業開始

一八七六・明治九年 長江谷と釣部が
第九大區加賀國河北郡小五區になる
長屋地内山林禪記を石川縣へ提出 惣代、
松田七郎・宮本又兵衛、村用係長井成一
長屋村最勝寺の本堂再建、遷佛芸殿
長江谷と釣部村が御所村役場管轄になる
釣部村に長屋小学校分校が設立
東・殿如上人より最勝寺へ書状
縣庁より長屋村、河原善五子防委員に
悪疫撲滅の感謝状が出る
百三十年ぶりに七ヵ用水の水訴訟が和解
東・殿如上人より加賀國
第四七小会中へ書状、最勝寺蔵
御所村外十七ヵ村に衛生組を設置
一八八七・明治二十年 御所村外十七ヵ村に衛生組を設置
一八八七・明治二十年 御所村外十七ヵ村に衛生組を設置
選挙を行い、長屋村河原善六が当選
一八八八・明治二十年 殿如上人より追加の書状、最勝寺蔵
一八九・明治二年 四月に小坂組と金堀組が合併、小と金を
合字して小金村に改称
長江谷は小金村、釣部は直江谷村へ
長屋村九二軒四一九人、夕日寺村三四軒六七人
伝燈寺村六軒二九人、牧村三七軒三〇人、
小・又村十七軒二〇人、
一八九二・明治五年 金沢川の長屋村洞門工事完成

八九三・北國新聞創刊
八九四・日本と清國が開戦
一八九五三年連続の不作始まる

一八九八・金沢駅開業
一八九九・伊藤博文が金沢視察
九〇一・金沢市内電話開通
加入者二八人
九〇二・石川県南部で大雨洪水
七千軒が被害
一八九四・日本とロシアが開戦
九〇六・県内で青年団結成盛ん
九〇七・三月末日で金沢城の時鐘刻打を停止
九〇七・三月末日で金沢城の時鐘刻打を停止
九〇七・金沢北郊(旧立地場所)

九〇七・小学校令改正で
義務教育六年になる
九〇八・金沢へ東京間に
長距離電話開通
九〇八・金沢市でガス供給開始
九州・メーソルト法実施

九一二・小坂村等へ電気開通
九一二・金沢城百間堀が道路に
九一四・第二次世界大戦始まる
九一五・金沢市公会堂完成
九一五・鶴来へ野々市間に鉄道
九一六・金沢へ野々市間に鉄道
九一八・米騒動が始まる
九一八・金沢でスベイノ風邪
九一九・金沢で初の市電開通
九二〇・初の国勢調査、金沢市
十二万九千五百人
九二〇・警察署管轄変更
小坂村は新田署管内
九二〇・金沢へ大阪間に
直通電話開通
九二二・犀川、浅野川河橋流失
一八九三・九月二日、関東大震災
一八九三・第三回金沢市祭開催
武者行列の始まり
一九二四・兼六公園を
兼六園に改称
一九二六・十二月二十五日に改元

八九二・明治五年 河北郡役所が山王阪往來聯合村協議会
議員選挙を行い、長屋村長井成一が当選
河北郡郡会議員選挙に釣部村松本宗次郎が
当選、明治四十年まで二期在職

九〇一・明治三四年 夕日寺村地番に小学校を設立
傳燈寺、現本堂が再建になる
長屋村の白山社を同村菅原神社へ合祀
九〇三・明治三六年 小金村収入役に長屋村河原善六が就任
牧村前田初次郎が獲選組会を創設、村民の
推薦で組合長に就任、在職二十年
九〇四・明治三七年 牧村の戸室社を同村三河神社へ合祀
河北郡郡会議員に長屋村前田作太郎が当選
大正六年五月まで二期半在職
九〇七・明治四十年 町村合併で長江谷は小金村から小坂村へ
釣部は三谷村に所属
九〇八・明治四一年 戦時記念林として長屋村で杉二町歩と
櫛くぬぎ一町歩を植林
伝燈寺白山神社を三河神社に合祀
九〇八・明治四二年 夕日寺農業補習学校が開校し九人入学
東宮の金沢行啓で小坂村と美川村が夜間
余興に申送り行列、長屋村は卯辰山へ
加賀河北志が発刊
九〇九・明治四二年 東影如上人が越後員四カ国巡教で金澤着
に際し末寺門徒中へ書状。

九一二・明治四四年 小坂村臨時工事委員に河原善六が当選
東別院曹蓮用材を小・又村で伐採、長江谷
各村が協力し山王坂往來より搬出
小坂村村長に長屋村長野樂次郎が就任
小・又村が大王天童即位記念祭を行う
夕日寺観音堂が完成、観音像と絵馬を
隣接の菅原神社より移動する
九一七・大正六年 夕日寺村で大火、二十三軒焼失
長屋村に消防組を結成、組頭・小園四・
消防手四十七人を登録
九一九・大正八年 八塚山を宮内省護陵寮が調査
長江谷を含む河北郡概が発刊
九二〇・大正九年 小坂村が平和克復祭(字のマツ)を行う
小坂村村会議員に長屋村河原善六が当選
釣部牧崎のトノソノと道路拡張工事完了
夕日寺村と小学校間の津井谷を埋立、道路
平坦化工事が竣工、四月に開通式
九一三・大正十一年 夕日寺観音緣起が謹書される
九月一日に夕日寺千手観音像の
千二百年祭を挙行(関東大震災、報道未達)
長屋村へ小・又間の道路拡張工事が完了
一九二五・大正十四年 牧村に前田初次郎の顕彰碑を建立

引用資料(五十頁順)

石川県産業奨励券集・北陸在来社
石川県林業史・石川県山林協会
豊根志・復刻日本古典全集
越中資料集成・桂書房
温故集談・金沢市図書館蔵書
改作所舊記・石川県図書館協会
加越能近世史研究必携・田川捷一
加越能古俳句書大観・石川県図書館協会
加賀の北の史的文化と地的景観・
加賀志敏・石川県図書館協会
加賀の下級武士の源政期と
継新後・鈴木雅子
加賀藩史料・前田育徳会
金沢市史・金沢市(平成版)
金沢市元町 本阿三郎家文書目録・
石川史書刊行会
金沢の五〇〇年・国書刊行会
加能越金砂子・石川県図書館協会

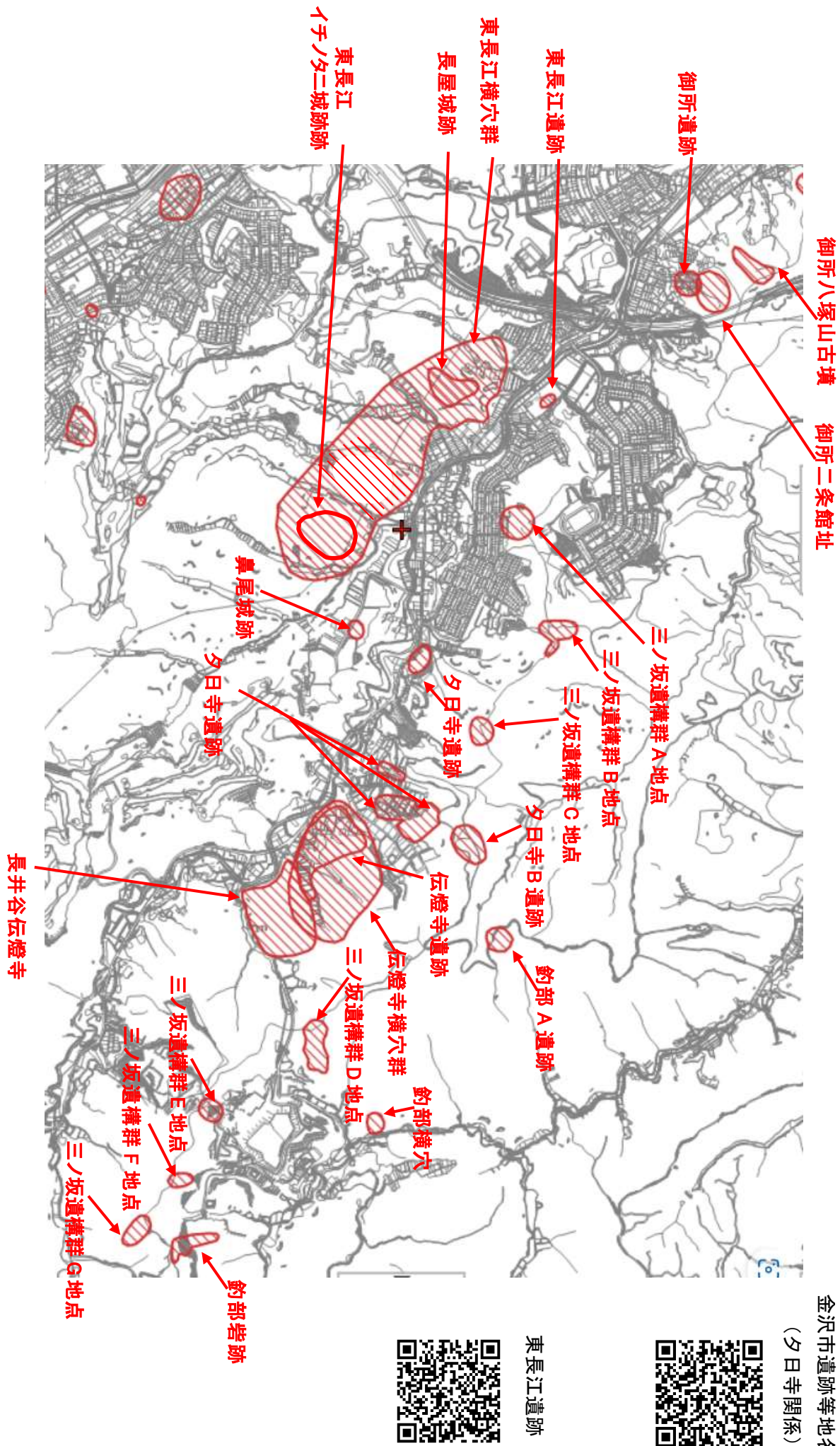
河北郡誌・石川県河北郡役所
北加賀の山城・高井勝己編集発行
小坂入(こさかびと)は
どから来たか・橋本清文堂
小又町时会休管文書・町会裏長回り
最勝寺休管文書・東長江町最勝寺
図説石川県の歴史・河出書房新社
星霜八十年墨翁が馬・石島一治
政隠記・桂書房
傳燈寺歴史資料報告書・傳燈寺保存会
富樫氏と加賀一向一揆史料・石川史書刊行会
昭随筆・石川県図書館協会
東長江の昔ばなし・夕日寺公民館
長江谷物語・夕日寺公民館
日本史小年表・山川出版
日本史要覧・山川出版
武蔵其底記・
北陸中日新聞・平成十二年四月二十五日版
その他・諸家所有文書類

一九二七・上水道布設推進のため
事務所開設
一九三〇・金沢放送局「OJK」が
本放送を開始
一九三三・金沢市内八人が開始
一九三三・県内でヨ一ヨ一、翠年
バチンコが流行
一九三六・県内豪雪で被害甚大
一九三六・二月六日陸軍による
クイテラ一事件
一九三七・林銑十郎が金沢市出身
初の内閣総理大臣に
一九三七・日中戦争が始まる
一九三七・石川県から始めて湖州
(中国東北部)へ入植団
一九三八・河北潟南岸の河北郡
一九三九・安部信行が金沢市出身
一人目の総理大臣に
一九四二・第二次世界大戦始まる

一九二七・昭和二年 大樋町に県知事横山助成が揮毫した
旧三朝御所傳燈庭園碑寺の石碑を建立
(後年、伝燈寺下東道沿いに移設)
夕日寺村出身者十八人で郷友会を結成
長江谷を含む小坂村の市編入が議案可決
富樫家遺孫が伝燈寺西川家よりイテ遺二を
購入・墓地として寺へ寄贈・永久保存確定
長江谷所属の小坂村が金沢市へ編入
農園村が東長江町に。釣部村は三年編入
一九三六・昭和十年 東長江町に市方面委員経営施設の
長江谷善隣館が託児事業を開始
第二回北國ハイキング。卯辰山大池へ
長江大瀬へ行く・傳燈寺へ夕日寺を知事
・市長を含む千人以上が参加
東長江町消防関係者に金沢消防組
第三十七部附属消防手の辞令が交付
小坂村農會(後の農協)が金沢市農會へ
編入し、小坂出張所設立
一九三七・昭和十二年

金沢市遺跡地図(夕日寺地域)

金沢市役所ホームページ
金沢市まちづくり支援情報システム



編集員

統括 植田卓志

編集員 中野明夫・平田大裕・長野幸二（東長江）細木清行（夕日寺）西川久行（伝燈寺）木沢健一（牧）

山口与志勝・前田博義（小二又）柴山毅（釣部）中川一成・大野昭雄（御所）

参考資料

- 「長江谷物語」
「長江谷の昔ばなし」
「年表で読む長江谷」
「道路網注記」
「加賀 傳燈寺 歴史資料調査報告」
「恭翁運良と曹洞宗」上・中・下
「金沢市史 通史編一」
「加賀河北の史的文化と地的景観」
「義賢について」
「北加賀の山城」
「高峠城址跡の調査成果」
「金沢市遺跡地図」
「東長江遺跡」
- 夕日寺公民館 夕日寺校下町会連合会
夕日寺公民館
平田大裕
長野幸二
傳燈寺保存会
駒沢大学佛教学部論集
金沢市編さん委員会
池上鋼他郎
「北陸石仏の会」会報
高井勝己
加越国境城跡群及び道調査指導委員会
金沢市まちづくり支援情報システム
金沢市埋没文化センター

編集後記

金沢市支援事業「地域のお宝」の成果品として、取り組みました。初版「長江谷のみちびき」は平成二十九年度「金沢市協働のまちづくりチャレンジ事業」で作成しました。今回は改訂版として、「親しみやすい」ことをモットーとしながら、新しく分かったこと、詳細説明、伝承文化、遺跡など多岐にわたり取り組みバージョンアップしたものとしました。

主な内容は、次のとおりです。

- 一、見やすくするため図版をA判として、拡大版としました。
 - 二、新たに確認できた史跡を追加し、編集を全面的に見直しました。
 - 三、写真は、新しく確認出来た被写体に変更しました。
 - 四、另コードを添付し、詳細説明の確認や改訂対応できるようにしました。
 - 五、校区の遺跡を地図、一覧表を追加し確認できるようにしました。
 - 六、現在の廃道も明記することが必要として、江戸・明治期の道路網を調査し記載しました。
- 編集員一同満足するものが、出来たのではないかと自画自賛しております。この冊子が有効に活用していただけましたら幸いです。
- 今後とも、皆様のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

二〇二四年二月吉日

夕日寺千三百年協議会

歴史研究会編集員一同